

- 1 派遣期日 平成 29 年 10 月 5 日 (木)
- 2 研修先 学校名 (会場名) 埼玉県春日部市立豊春中学校  
所在地 埼玉県春日部市 南中曾根 107-2  
<http://www.toyoharuchu.av-center.kasukabe.saitama.jp/>

### 3 研修内容

#### (1) 主題

ア 研究主題 人間関係・クラスづくりを図る特別活動の充実

#### イ 主題設定の理由

埼玉県教育委員会では、平成 22 年度まで特別活動の研究協議会を開催していた。その後平成 27 年度から東部地区限定で実施している。主に学級活動 (特に活動内容 (1)いわゆる”学級会”)の指導に関する研修を設定しており、特別活動 (学級活動)の授業研究及びその指導に関する研究協議を通して、教師の指導力の向上と小・中学校における特別活動の充実を図り、人間関係・クラスづくりを行うことができると考えている。

そこで豊春中学校では、学級会を積極的に取り入れ、リーダーの育成を図るとともに、相手の立場や気持ちを考えながら発言ができるよう指導を行っている。

#### (2) 授業参観

ア 参観学年及び教科

① 中学校 1 年生 学級活動 内容 (1) イ  
「合唱祭のクラススローガンを決めよう」

② 中学校 2 年生 学級活動 (1) ア  
「合唱祭に向けて、クラスがまとまるお守りカードを作ろう」

#### イ 授業の実際

① 授業中は、司会の生徒を中心に進行しており、教師は話し合いが止まってしまったときに助言をする立場であった。授業の導入では、事前に行った合唱に対しての意識アンケートの結果を提示し、課題意識の共有を図っていた。そのことにより、学級全体で話し合いに参加するという雰囲気作りをすることができていた。その後、小グループで話し合いを行う際、タイマーを活用することで、司会の生徒も時間を気にせず話し合い活動に参加できるようにするなど、全員で活動が行えるようにしていた。

② 2 年生の授業も 1 年生と同様に生徒主体で話し合いが進められていた。その中で、グループの意見を発表する際に、マグネットシートに意見を書かせたり、賛成票を赤いマグネット・反対票を青いマグネットで示したりすることで、板書の時間を減らすとともに、賛成・反対をわかりやすくしていた。また、話し合いは「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の 3 段階に分けられており、今何をするべきかが明確になるように場面設定されていた。



図 1 生徒が学級会を進行している様子



図 2 教師が助言をしている様子

### (3) 研究協議（主な意見）

- 1年、2年という学年の発達段階により、発表の仕方や聞く態度など成長の様子が見られた。学級会に慣れるということが大切であり、日頃の実践を積み重ねることの重要性を感じた。
- 行事と関連させた学級活動を実際に行うことが多いので、とても参考になった。アンケート結果を活用するなど、今後の指導の中で生かせることが多かった。
- 生徒同士の信頼関係が築かれており、話合いがスムーズに進められていた。話合い活動によって生徒がどう変化し、どう行動できるようになるか見ることができて良かった。

### (4) 講師指導

ア 指導者：加須市教育委員会 酒巻 克太郎 主幹兼指導主事

イ 主題：学級・学校文化を創る特別活動

ウ 内容

- 1 改訂を踏まえて
- 2 特別活動の魅力・教育的意義
- 3 特別活動リーフレット・指導資料はなぜつくられたのか
- 4 特別活動の指導に係る小中の違い
- 5 学級文化、学校文化とは
- 6 学級・学校文化を創る学級活動・生徒会活動・学校行事
- 7 「話合い活動」を進めるに当たって
- 8 「話合い活動」をどう進めるか
- 9 学級経営に生きる特別活動
- 10 特別活動の指導を通して

エ 講師指導を受けて

学級活動をはじめとする特別活動は、いろいろな価値や見方にふれることを大切にすることで生徒のよさを伸ばすことができる領域だと言える。また、特別活動における小学校と中学校の違いをきちんとわかった上で、小・中学校でつながりをもたせた指導を行うことで、より生徒たちを成長させられる特別活動にすることができると感じた。特別活動リーフレットなどには理論的なことだけでなく、実践的な授業内容も記載されているので、今後の実践に生かし、その反省をもとに、次の指導に生かせればと思う。

## 4 感想

学級活動をしっかりと行うことで、リーダーを育成したり、リーダーの補助をする生徒を育成したりと生徒を大きく成長させられることがわかった。そのような学級活動に生徒が積極的に取り組めるようにするためには、クラスの意見を集め、学級委員で話し合わせたことを反映することも大切だと感じた。また、生徒主体で話し合いを行うためには、司会を行う生徒に事前指導を丁寧に行い、生徒一人一人のことを考えた進め方ができるようにしておく必要がある。また、反対意見も伝えられるようにするために、普段の生活の中で生徒同士の信頼感を高めることの大切さを痛感した。それらを踏まえて、話し合いを行う際には、相手を認めるという立場に立った上での発言を意識させたり、お互いの意見のよいところを取り入れながら話し合いを進めたりするなど、自分も相手も尊重する方法を学ばせるよう工夫することが必要である。

今回の研修で学んだことを生かして学級活動などに取り組み、生徒たちが生徒同士の関わりの中で、自分で考えたことを行動に移したり、個人を尊重した行動がとれるよう指導・支援を図ったりしていきたい。